

教育センターだより



南砺市教育センター



「若手とベテランが融合した最高のチーム」に！

南砺市教育センター 所長 杉下 悦子

新型コロナウイルスが急拡大する逆境の中、東京オリンピックとパラリンピックが開催されました。世界各地から、目標をもち前向きに努力を重ねたアスリートが集結し、自己の限界に挑戦していました。

パラリンピックで銀メダルを勝ち取った「車いすバスケットボール」には、県からも宮島選手と岩井選手の2人が選出されており、日本チームが、次々に強敵を破っていく姿に、連日テレビに釘付けにされました。MVPを獲得した若い選手や最年少の選手の伸び伸びとしたプレーも目を惹きましたが、同時にベテラン選手の堅実なシュートや守りが彼らのプレーの支えになっているように感じました。ベテラン選手は、「若手のおかげで試合に勝っている、自分たちは彼らのミスのカバーするために戦っている」と話しており、強い信頼関係を垣間見た気がしました。

また、そうした関係を表すようなエピソードが新聞記事に載っていました。当時中学3年生だった岩井選手は、既に世界で戦っていた宮島選手に「お前も頑張れば、代表選手になれるよ」と声をかけられたそうです。その言葉を頼りに宮島選手の背中を追いかけた岩井選手は、試合後のインタビューで「テツさんがフォローしてくれるので、安心してプレーができた。一緒にメダルがとれてうれしい」と話し、宮島選手もコート上で目を腫らしながら岩井選手に「富山に帰って、また練習しよう」と告げたということでした。

さて、南砺市が進めている「チーム担任制」も2年目となりました。上述の「車いすバスケットボール」同様、各校において、若手とベテランが「チーム」となって、日々子供たちの指導に取り組まれていることと思います。

7月に各校から提出いただいた報告書および市内教職員266名によるアンケート結果からは、各校において、児童生徒にとって効果的な指導・支援につながるように学校や「チーム」で工夫を凝らしながら取り

組まれている様子が伝わってきました。アンケートの結果、以下のグラフのとおり、「他の教員から学ぶことができた」や「子供にとって効果的な場面があった」という項目については、小・中学校とも8割以上の高評価でした。

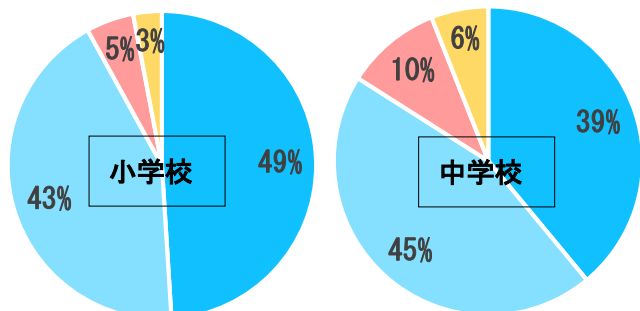
「他の先生方の授業がとても参考になった。また、授業の状況で学年の足並みが揃うため、安心して授業を進めることができた。(20代担任)」など、若手教員にとっては、先輩教員から指導技術を学ぶ場になっていることが伝わってきました。また、学年の子供たちについて相談し合う機会がもてることで、教員が一人で負担を抱え込まずに済む「負担感の軽減」という側面からの効果も挙がっていました。複数の目で子供たちを見守ることや子供たち一人一人を多面的な見方で観察できることが、子供たちへの効果的な支援につながっていることも、「チーム担任制」の効果として挙げている先生方の声も多くありました。一方で、「教職員の勤務の負担軽減にはつながっていない」との意見も挙がっており、課題も少なくありません。しかし、徐々に若い先生方が中心になって授業を進める機会を増やすなど、各校で対策が進められているようです。

「チーム担任制」の土台となるのは、若手教員は先輩教員から学べることに感謝し、自分のよさを発揮すること、先輩教員は若手教員を信頼し、その成長を喜ぶこと、つまり「仲間として認め合う相互の信頼関係」だと思えます。

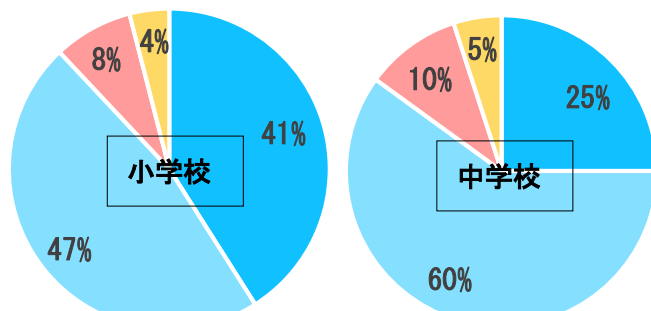
各校において、先輩教員が、若手教員の心に火を付け、そのよさを認め、安心して実践できるようにすることで、「最高のチーム」を築いていただき、南砺市各校の「チーム担任制」をさらに軌道に乗せていきたいものです。

是非、各校での効果的な取組をお知らせください。市内各校に発信していきたいと思えます。

他の教員（の指導）から学ぶことができた



授業以外でも、子供にとって効果的な場面があった



●「はい」 ○どちらかといえば「はい」 ●どちらかといえば「いいえ」 ●「いいえ」

市教育センター研修会報告

ふるさと学習研修会（南砺の地域めぐり）

- 日時：令和3年7月26日（月） 13：30～16：30
- 会場：いのくち椿館、井口地域の歴史・文化施設
- 講師：井口地域ガイドボランティア 藤田 節子 先生
- 参加者：16名（小学校6名、中学校7名、義務教育学校3名）
- 内容：井口地域の歴史・文化施設めぐり



宮後八幡社『キンケン石』



井口城址



池尻中世石塔群



赤祖父湖

参加者で赤祖父溜池工事の作業唄『えんやら節』を歌いました。

<参加者の感想より>

- ・普段、何気なく通る道にもいろいろな歴史があるということに気付かされました。特に「円筒分水槽」の見学では、水を平等に分けるための昔の人の知恵がすばらしいと思いました。
- ・研修会を通して、現地に足を運んで本物を見るということの大切さを実感しました。今回のように地域のガイドの方を招いてお話をさせていただくことで詳しいことも知ることができ、とても貴重な時間になりました。

コミュニケーション教育研修会

- 日時：令和3年8月2日（月） 13：30～16：30
- 会場：南砺市地域包括ケアセンター
- 講師：芸術文化観光専門職大学 学長 平田 オリザ 先生
- 参加者：38名（小学校8名、中学校6名、義務教育学校1名、砺波市15名、小矢部市8名）
- 内容：授業で使えるコミュニケーションゲームと学力の結びつき



◆ 授業で使えるコミュニケーションゲーム（ワークショップ）

- ・「富山県と言えど？」などのテーマで同じ意見の人を探し、グループになるという活動を行った。このような活動を学習の導入等に取り入れることで、子供たちが楽しい気分で学習に入ることができることを、参加者自身が体感することができた。
- ◆ 今の子供はコミュニケーション能力が低下しているのか？
 - ・子供たちのコミュニケーション能力が低下しているわけではない。子供たちを取り巻く環境が多様化、複雑化し、子供に求められる能力が変わってきているのである。
 - ・「伝える技術」を教え込もうとしても「伝えたい」という気持ちが子供になければ、その技術は定着しない。「伝えたい」という気持ちは「伝わらない」という経験を積み重ねなければ培われない。「伝えたい」と思わせるための体験をいかにして積み重ねていくかが課題である。

<参加者の感想より>

- ・コミュニケーション教育といっても、能力を身に付けさせるのではなく、他者と接触する経験を増やし、他者と触れ合うことが楽しいという気持ちを知っていくことが大切だとお聞きし、確かにこれからの時代に大切にしていかなければならないと思いました。
- ・いかに自分の基準で物事を見たり考えたりしているのかがよく分かりました。人によって見方、考え方が異なることを念頭に置き、「つもり」によって「ずれ」が生じていることを認識しながらすり合わせていくことを日頃の教育の中で大切にしていきたいと思いました。

道徳教育研修会

- 日時：令和3年8月25日（月） 13：30～16：30
- 会場：参加者の各勤務校
- 講師：畿央大学 教授 島 恒生 先生
- 参加者：52名（小学校11名、中学校7名、義務教育学校1名、砺波市9名、小矢部市24名）
- 内容：「考え、議論する道徳」を進めるために



Zoomを使ったオンライン研修

◆ 子供が「天井を向く」授業を！

- ・ 一生懸命考えようとする子供は天井を向く。そして、友達の発言に対して「なるほど！」「あ～！」とつぶやく。道徳の授業で目指すのは子供たちのこのような「深い学び」のある姿であり、教科書ばかり見ている子供の姿ではない。



◆ 授業づくりのポイントは「学び」と「問い」をデザインすること

○「学び」をデザイン

- ・ 「心の内面（＝道徳性）を養うのが道徳の授業」という捉えを教師がしっかりもつこと、そして子供たちの発達段階を考えて授業を行うことが大切である。

○「問い」をデザイン

- ・ 「次の質問、行くよ」で進む問いではなく、子供の思考の流れに沿った問いと展開を考える。
- ・ 教師は授業のねらいはしっかりもち、そのねらいに迫るための中心発問を吟味する。

<参加者の感想より>

- ・ 道徳の授業を行う際に、教科書を見るのではなく、天井を見る子供がいる授業にしていかなければならないという言葉が印象に残りました。自己との対話を繰り返しながら教材と関われるように、また道徳的価値をしっかりと考えた授業づくりが大切だと感じました。
- ・ 子供の発達段階やねらいに応じた中心発問をしっかりと考えることが大切だと改めて感じました。また、指導案を確認しながら進める授業ではなく、子供たちの思考の流れに沿った授業を展開することで、深まりのある授業になるということも分かりました。

今後の研修のお知らせ

ICT活用研修会

授業の中でのタブレット端末の効果的な活用方法について、実際に端末を使って研修を行います。

【日時・会場】

- ・ 小学校：11月16日（火） 福野小学校
- ・ 中学校：11月9日（火） 吉江中学校
- ※小・中学校とも 14:30～16:30（予定）

【講師】

富山大学大学院 教職実践開発研究科
准教授 長谷川 春生 先生



学力向上研修会（10月以降の予定）

市内の若手の先生による公開授業と事後研修会を通して、子供の発言の捉え方や授業の見方について研修を深めます。若手の先生に限らず、多数の参加をお待ちしています。

【日時・会場】

- ・ 10月18日（月） 城端中学校
- ・ 11月7日（水） 平中学校
- ・ 1月14日（金） 平中学校
- ・ 1月28日（金） 福野小学校

※授業者、教科、時間等の詳細は学校からの案内をご覧ください。

【コーディネーター、指導助言者】

南砺市教育委員会
教育長 松本 謙一 先生



第17回 南砺市小・中学生科学展覧会

- 公開方法 南砺市教育センターのホームページ上で公開
- 公開期間 令和3年9月15日(水)～30日(木)
- 出品数 小学校、義務教育学校前期課程51点(低学年13点、中学年21点、高学年17点)
中学校、義務教育学校後期課程21点 計72点

※ ホームページへの掲載に承諾をいただいた作品のみ公開させていただきました。



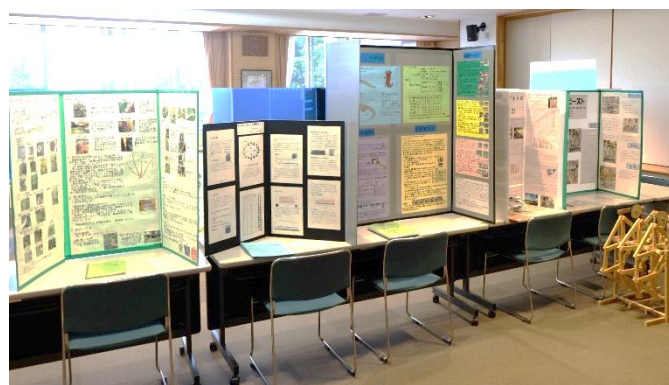
今年度は、新型コロナウイルス感染症急拡大の影響で、予定していた井波総合文化センターでの科学展覧会が開催できませんでしたが、福光東部小学校において運営委員による審査を行いました。研究の獨創性、追究への意欲、追究過程、記録の考察やまとめる表現力等の観点から審査していただきました。

募集要項の変更に伴い、例年より作品数は少なくなりましたが、身近な生き物や自然、環境をテーマとした作品や、日常の何気ない疑問を研究につなげた作品等、一生懸命に打ち込んだ児童生徒の作品が出品されました。各校より出品された児童生徒の作品につきまして、ホームページ上で公開させていただきました。

審査の結果、優秀賞に選ばれた10点の内5点が10月15日(金)～18日(月)に富山市科学博物館で行われる第80回富山県科学展覧会に出品されます。受賞者は、各校配付の「受賞者一覧」及びHPをご覧ください。



【低学年の作品】



【中学生の作品】

スクールバスについてのお願い

☆「スクールバス等利用許可申請書」について

- ・利用日の**2週間前までに教育センターと委託業者**の両方に FAX してください。
(万が一、締め切り日より遅れる際には、その旨、必ず事前に電話連絡をお願いします。)
- ・急な申込み、締め切りのすぎたものは、バスの手配ができない場合があります。
- ・人数は、付き添いも含めた数で申請してください。
- ・高速道路を利用する場合は、事前に教育センターにお知らせください。
(バスによっては**高速道路を利用できないものがあります。**)



☆スクールバスの利用について

- ・部活動等の試合結果で、バス利用状況が変わる際には、結果が分かり次第、早急に教育センター(高田)へ連絡してください。
- ・バスを待たせることのないように、バスの出発時刻は必ず守ってください。
- ・見学先との打合せは各校で事前に行ってください。(下見が必要な場合は、各校でお願いします。)
- ・駐車場の確認・手配は各校でお願いします。(教育センターはバスの手配のみ行います。)